



こやまの小旅



田んぼアートと古代バス&さきたま古墳

田んぼをキャンバスに見立て、数種の稻を絵具として描くアートは、圧巻です。行田市では、2008年から毎年6月に一般参加者とボランティアにより田植えをすると、12月頃お米のプレゼントがありますよ～（参加費¥1000）7月下旬から8月にかけて絵柄がはっきり見えます。9月頃から茶色に変化して10月になると稻刈りです。2015年には、27.195平方メートルと世界最大の田んぼアートとしてギネス記録に認定されました。（縦180m、横165m）



「未来へつなぐ古の軌跡」

2025年は縦180m、横150mの竈門炭治郎を高さ50mの展望室から、観ることができます。展望室（行田タワー）へは、11人乗りエレベーターが一基のみ最大で2時間待ちもあったとか。



「鬼滅の刃・無限城編」

H27年度 田んぼアート使用品種等				
色	品種	主な使用箇所	備考	面積：約28,000m ²
1 緑	彩のかがやき	地球（海）	埼玉県奨励品種 【配布用】	【縦】 160m（北側） 180m（中央） 170m（南側）
2 薄白	白いかがやき	地球（日本・陸地）		
3 白	ゆきあそび	人物・星・はやぶさ2		
4 ピンク（緑）	西海観246	蝶・羽衣	9月上旬頃、 ピンクの穂	【横】 50m（北側） 50m（中央） 65m（南側）
5 銀（緑）	（新）次世代のまなざし	蓮	9月上旬頃、 白い穂	
6 黄緑	（新）キヌヒカリ	蓮根たく・髪飾り	葉が他の稻より 早く黄色に色づく	
7 黒	紫905	蟹・ライ		
	紫905（背景）	背景（宇宙）		

○使用品種

色	品種
緑	彩のかがやき
白	ゆきあそび
赤	べにあそび
黒	紫905

↑ 2015年
← 2025年
パンフレットより

古代ハスの里



行田蓮の特徴

行田蓮は花蓮のなかでも、古代の蓮のもつている
さまざまな特徴をそなえています。



花びらの色はやや濃い紅色で
条線は不鮮明



↑ 展示室より



42種類、約12万株が咲く14万平方メートルの公園。

行田ハスは地中から出土した1400年から3000年前の種が自然発芽したものです。立葉は180cm以上、花径は人間の顔より大きく、ベンチに乗ったり、自撮り棒で撮影しました。こんなに大きなハスは、観たことがありませんでした。

開花期間は4日間で、段々と色が薄くなり、午前中が見頃、午後には蕾になるということで朝8:30に到着撮影です。



さきたま古墳群

県名発祥の地であり、5世紀後半から7世紀中頃に連続して築かれ前方後円墳7基、大型円墳2基、方墳1基、小円墳群、約30ha（東京ドーム8個分）の公園です。余りの広さに全て回り切れず、主要な古墳のみ6基、回ることにしました。



← 国宝 金錯銘鉄剣
稲荷山古墳より出土

鉄剣には「私の先祖は代々親衛隊長を務めてきた。
私はワカタケル大王に仕え天下を収めるのを補佐した。
辛亥の年7月に、これまでの功績を刻んで記念とする」と記されています。

瓦塚古墳・鉄砲山古墳・二子山古墳・丸墓山古墳
稲荷山古墳・将軍山古墳のうち5基に上りました。
将軍山古墳は石室見学、頂上禁止。
頂上は、台地になっており何もありませんでした。
埴輪・須恵器・馬冑（馬の鎧）等々出土しています。



バスで1駅、忍城(おしじょう)へ足を延ばしました。



室町時代の初めに成田氏により築城され、戦国時代の終わりに豊臣秀吉の関東平定に際して石田三成らによる水攻めにも耐えたことから、『浮き城』と言われた。関東七名城の一つでもあるが、現在の御三階櫓は、明治維新の際取り壊されたものを再建したものです。



松平氏が、桑名より忍城へ国替えの際、鐘も移されました。
現存するこの鐘は子の忠刻が、父（松平忠雅）の愛した鐘を火災により、失ったことを嘆き宝暦14年再鋲したものです。



今回は、36℃という猛暑の中、熱中症対策の荷物と早朝5:27発の電車に乗り、ハードスケジュールと交通アクセスの悪い地への旅でした。
外人観光客を見ることが無くゆったりとした気持ちで観光でき、満たされました。
ただし、10:00近くになると観光バスツアーや一般の方たちで、いつも見る光景と怒号に……
田んぼアートと古代ハスの見頃が、どちらもピーク時とはいかず、欲張り過ぎでした。（埼玉県行田市の旅でした。）